

觀世流改訂儒本

別四

三笑
鳥返每
藤
水書自被
致占



明治四十三年七月十日印刷
明治四十三年七月十五日發行

訂正者、檢印
ナキモノ、八偏版也



東京市麹町區中六番町二十九番地

訂正兼
發行

丸

岡

桂

東京市下谷區二長町壹番地

印刷者

塚原錦三郎

東京市下谷區二長町壹番地

印刷所

凸版印刷株式會社

東京市麹町區中六番町廿九番地

發行所

觀世流改訂本刊行會

電話番町二五四番

脇能

三笑

十一月
ツツレ
陸陶惠
修淵遠
静明禪師

吾人東遊廬山のもろもろ居て三
十餘年隱山を出ても白蓮社を結
び並ふたれ賢あり。其外數百人せ
う捨て榮を忘れて其は西方を仰
ぎ字を禮して竹草庵はねえま
かくて流れて枕を岩の上に敷き

つ上^ウ考^{カウ}、行^{ギョウ}程^{ジョウ}の行^{ギョウ}以^イま^マ。空^{ソウ}程^{ジョウ}の
庭^{テイ}も^モ西^{セイ}は^ハ低^{テイ}く^クあ^ア。洞^{ドウ}
煙^{エン}客^{カク}室^{シツ}の内^{ノウ}も^モ瀑^{ハク}布^フけ^ケ瀧^{タキ}の白^{ハク}
妙^{ミョウ}。曙^{ショ}の山^{サン}は^ハ姿^サ態^{タイ}を^ヲ方^{カタ}で^デな^ナら
り^リけ^ケ。雪^{ユキ}無^ム心^{シン}う^ウて^テ以^イて^テ山^{サン}を^ヲ出^デ
で^デ鳥^{トリ}飛^{トビ}が^ガや^ヤは^ハ倦^{ウツ}んで^デ還^{ヘン}る^ル事^{コト}を^ヲ
や^ヤ知^チら^ラん^ン。霞^{カサ}も^モや^ヤ霜^{スミ}降^{フリ}月^{グツキ}

とて^光淵^ニ羽^ニを招きけり^上三人^ニ共^ニ
と拜^ニを^ニあ^ニ廬^上山^ニけ^ニさ^ニあ^ニも^ニ戸^ニ橋^ニ
と心^ニ静^ニる^ニ渡^ニり^ニつ^ニて^ニ殿^ニ又^ニ腰^ニを^ニう^ニけ^ニ
と瀑^ニ布^ニを^ニ眺^ニめ^ニ流^ニる^ニ三^ニ千^ニ也^ニ東^ニの^ニ眼^ニ
と盡^ニき^ニ十二^ニ固^ニ縁^ニが^ニ心^ニけ^ニら^ニう^ニと^ニあ^ニら^ニも^ニ
と^ニう^ニる^ニ東^ニ去^ニ禪^ニ師^ニは^ニ申^ニま^ニへ^ニお^ニ
と事^ニけ^ニら^ニ何^ニ事^ニも^ニて^ニい^ニそ^ニと^ニて^ニ廬^ニ

ふよふらふらるる者なり。傳ふあひぎ

と申ふより。海^{シテ}ふたふたの申ふ

さ^シて瀑布^ハといふ事いふなるをこれ

のあるやらん。ち^{シテ}く異なる事なり。

萬^{マン}何^{ナニ}名^ナを得て瀑布といふ。日^{リツ}香^カ

爐^ロを照^シしては煙^{エン}やある。遠^{トホ}く見

れ、穢^{ケガレ}るやうにて天^{ソラ}なる掛^カく。雲^{クモ}

尺^{シヤク}を^ニ鏡^{ミタマ}ふ^ニ事^{コト}を^ニめ^ニよ^ニ度^{タカ}り^ニか^ニた^ニ
な^ニち^ニは^ニ金^{キン}力^{リキ}の^ニ常^{ジョウ}裁^{サイ}一^ニ易^{ヤス}き^ニを^ニ忍^ニぶ^ニ
憤^{リン}り^ニて^ニ松^{マツ}栴^{セン}は^ニ向^{ムク}つて^ニ夏^{ナツ}雷^{ライ}を^ニあ^ニ候^ニ
き^ニま^ニつて^ニ匠^スを^ニ春^{ハル}雷^{ライ}を^ニな^ニま^ニ知^チら^ニ
と^ニ欲^{ゾク}す^ニと^ニ銀^{ギン}河^カの^ニ水^{ミヅ}な^ニる^ニこ^ニと^ニを^ニ人^ニ
向^{ムク}ふ^ニ随^{ズイ}は^ニ帝^{テイ}と^ニ今^{イマ}を^ニあ^ニつて^ニ迎^{ムカ}
上^{ウヘ}月^{ツキ}入^{イル}る^ニ三^{サン}國^{コク}無^ム双^{ソウ}け^ニ瀧^{タキ}を^ニ今^{イマ}ま^ニで^ニ拜^{イハス}せぬ^ニ

心こそ愚なりけれもとり吟詩酒
 の友あり心静る昔をいざや語ら
 ん柳花酒と申まは鼓琴の令
 となる宿もあるる八十餘日印を解
 りて去るとも。日米は酒を愛し松菊
 と歌ふ菊と東都のもとは採つて南
 山を見る事も。君は忠ある故とら。

又陸脩靜シテ上ニサ字ハ伯ハ宣ハ帝ハのハ時ハはハ新ハのハ法ハをハ受ハんハでハ陸ハ者ハ士ハとハ申ハまハとハかハ後ハのハ當ハはハれハ簡ハ寂ハ觀ハはハ隱ハ居ハしてハまハりハまハさハりハ人ハはハ天ハ下ハはハもハまハぶハ方ハもハなハきハるハあハれハもハ廬ハ山ハはハ虎ハ溪ハもハ方ハらハぬハ光ハなハりハけハりハ菊ハのハ白ハ露ハ後ハりハつハもハつハてハ不ハ老ハふハ死ハのハ葉ハはハ泉ハよハもハ盡ハまハうハとハ

上地

成萬代も^{ヨク}いふ^クな^ルさま^ニ益^ニの^ニ也^ニ

る^ニ夜^ニも^ニウ^ニの^ニう^ニれ^ニる^ニ暮^ニる^ニも^ニ白^ニ菊^ニれ^ニ

花^ニと^ニ看^ニよ^ニま^ニち^ニ舞^ニの^ニ袂^ニ酒^ニ狂^ニの^ニ祥^ニ

と^ニや^ニ人^ニの^ニ見^ニん^ニ萬^ニ代^ニと^ニ萬^ニ代^ニと^ニく^ニ

松^ニい^ニく^ニも^ニ例^ニあり^ニ松^ニい^ニく^ニも^ニ例^ニあり^ニ

年^ニや^ニあ^ニい^ニ松^ニも^ニ録^ニい^ニ居^ニ来^ニけ^ニ如^ニお^ニ松^ニ四^ニ

季^ニも^ニ同^ニい^ニは^ニま^ニる^ニけ^ニ常^ニ盤^ニ求^ニの^ニ松^ニ菊^ニ

と愛する。あたゝかた入る。是も。と。涙。
涙。と。上。入。若むも。橋。と。よろめき。泣。へ。も。
洞。陸。た。衣。よ。不。錯。し。泣。ひ。て。虎。溪。と。
遠。う。よ。出。で。泣。へ。洞。の。禅。師。よ。う。て。橋。
を。破。ら。せ。給。ふ。と。一。度。よ。う。つ。と。手。を。
う。ち。笑。つ。て。三。笑。け。昔。と。な。り。よ。け。り。

鳥追ふ

八月
トツワ子シ
モレキ方テ

日暮殿の妻
花若
日暮殿
左近尉
従者

男白

是より著い九州薩摩の國日暮
殿の所司たる迄の尉と申ま者にて。
さてもいふを里と申す。前より大河
流來の湖水よりづけり。け湖水より村鳥より
て浦向ひの田を食ふの向。毎平鳥追ふ
とせり。由づれば鳥を追ふを。又頼み

奉る目まが殿は訴法の事あるより
所在京よりての。其は留字はたの所方
と。花若殿と申も切き人のききなる。あ
まりは鳥張をなすもさる者もあへん。
花若殿を雇ひ申し田づられ鳥を遊
ませりさるやとな。いふは業内なる。
たのの射が奉りての。たのの射とい

シテ女

何れ為^り作^られり。まゝにぞ^男た^りてい^ふ殿^い

此^レ秋^ノの頃^ノ所^ノ下^ノ向^ノある^ルま^ニ由^リ申^スる

い^ふは^レ花^ノ若^ク姪^ハら^ニら^ニ又^男作^られ

ある^ル事^ノ餘^リの儀^ハあ^らま^ニき^ニ當^リ年^ノ某^ノ

が^ハ身^ハ更^ニは^レ鳥^ノ追^ハを^セま^ニま^ニる^ル者^ナく

い^ふは^レ花^ノ若^ク殿^ハ出^でて^ハあ^らま^ニて^ハ鳥^ノを^追は^レ

て^ハ追^ハは^レび^たり^し也^ナ。た^ゞあ^らま^ニの^ハ事^ノ申^スる

為^ウはまうてゐ^ウ 何^{ニテ}と花^ハを田^タづれ
 鳥^{トリ}を込^コへと申^ウまう。花^ハを推^イけぬも。
 た^タの財^{サイ}が為^ウはまうてゐ^ウなまう。な^ナ
 鳥^{トリ}を込^コへと申^ウまう。ち^チた^タの財^{サイ}は
 と情^{セイ}も者^{モノ}そなはれ^レ 何^ニとた^タ
 の財^{サイ}情^{セイ}な^ナ者^{モノ}と作^サせら^ラま^マう^ウ心^{シン}
 と静^{シユ}めて聞^クく^クさ^サれ^レ人^ニ。人^ニの^ノは^ハ